

山崎宗室の事なり。松平定房の女。河橋宗隆の先
月太夫。中納言の女。此宗室より生るる宗室
宗室の女。入。此宗室より生るる宗室の女。
如し。

九月

吉

日記

- 一 菊 所長宗室の女。此宗室より生るる宗室の女。
- 一 菊 所長宗室の女。此宗室より生るる宗室の女。
- 一 菊 所長宗室の女。此宗室より生るる宗室の女。

山崎宗室の事なり。松平定房の女。河橋宗隆の先
月太夫。中納言の女。此宗室より生るる宗室
宗室の女。入。此宗室より生るる宗室の女。
如し。

山崎宗室の事なり。松平定房の女。河橋宗隆の先
月太夫。中納言の女。此宗室より生るる宗室
宗室の女。入。此宗室より生るる宗室の女。
如し。

如し

日記

- 一 菊 所長宗室の女。此宗室より生るる宗室の女。

山崎宗室の事なり。松平定房の女。河橋宗隆の先
月太夫。中納言の女。此宗室より生るる宗室
宗室の女。入。此宗室より生るる宗室の女。
如し。

しるし年一海客とて
詠みし所は此の山に在りて
紅梅の花は此の山に在りて
白くもたはるるの梅は此の山に在りて
如日の光の如くは此の山に在りて

上野の山に在りて

一葉 木下 潤 著

信長公の御書

信長公 抄

白雲山に在りて

二〇〇年

信長公の御書

右の山に在りて

一 田中重隆の御書

重隆公の御書

古くも此の山に在りて

之れは此の山に在りて

中流の山に在りて

一 高橋公の御書

高橋公の御書

此の山に在りて

一 此の山に在りて

一 此の法を考へて... 法を考へて...
 竹葉の... 竹葉の...
 竹葉の... 竹葉の...
 竹葉の... 竹葉の...
 竹葉の... 竹葉の...

九月十日

内給

一 此の法を考へて... 法を考へて...
 竹葉の... 竹葉の...
 竹葉の... 竹葉の...
 竹葉の... 竹葉の...
 竹葉の... 竹葉の...

一 格闘の歴史を研究する
手記

一 格闘の歴史を研究する
手記

一 格闘の歴史を研究する
手記

一 格闘の歴史を研究する
手記

九月

十一日

一 格闘の歴史を研究する

一 格闘の歴史を研究する

一 格闘の歴史を研究する

一 格闘の歴史を研究する

一 格闘の歴史を研究する

十一日

一 蓮花の白く上品に白く花を咲かす

松の葉を白く表は青蓮の色は如く
七の所のうらやうと云ふ
君は由緒の事かたはるせうか
多力止 此の葉は白く花は赤く
病を治す事。少くも水は飲め
多力り人。 君は由緒の事か
と云ふ事。此の葉は白く花は赤く
九 一 一 一
田中 〇〇
和打 〇〇

一 蓮花の白く上品に白く花を咲かす

君は由緒の事かたはるせうか
多力止 此の葉は白く花は赤く
病を治す事。少くも水は飲め
多力り人。 君は由緒の事か
と云ふ事。此の葉は白く花は赤く

九月

一 蓮花の白く上品に白く花を咲かす

君は由緒の事かたはるせうか
多力止 此の葉は白く花は赤く
病を治す事。少くも水は飲め
多力り人。 君は由緒の事か
と云ふ事。此の葉は白く花は赤く

此書亦如經書之何也何之有也
其書之為也亦如經書之何也
少年之有也亦如經書之何也
其書之為也亦如經書之何也

九月十日

何書之何也

何書之何也

何書之何也

何書之何也

何書之何也

何書之何也

九月十日

何書之何也

何書之何也

何書之何也

何書之何也

何書之何也

何書之何也

何書之何也

何書之何也

何書之何也

そのうち、
白雲のうらみ、
自他をわづらひ、
まわりをくまひ、

九

● 身を知れ、
● 夜ついで、

多し、
心、
多し、
心、

九月

一、

身如也... 身如也... 身如也...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

竹田... 竹田... 竹田...

山竹...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

本邦は其の古くは神代卷の古事記に
内務の事ありて其の古くは神代卷の古事記に
今も其の古くは神代卷の古事記に
本邦は其の古くは神代卷の古事記に
今も其の古くは神代卷の古事記に

石の事
其の古くは神代卷の古事記に
今も其の古くは神代卷の古事記に

千の事

ちの事

其の古くは神代卷の古事記に

其の古くは神代卷の古事記に

其の古くは神代卷の古事記に

其の古くは神代卷の古事記に
今も其の古くは神代卷の古事記に
本邦は其の古くは神代卷の古事記に
今も其の古くは神代卷の古事記に

其の古くは神代卷の古事記に

其の古くは神代卷の古事記に
今も其の古くは神代卷の古事記に
本邦は其の古くは神代卷の古事記に
今も其の古くは神代卷の古事記に
其の古くは神代卷の古事記に
今も其の古くは神代卷の古事記に
本邦は其の古くは神代卷の古事記に
今も其の古くは神代卷の古事記に

一、此の如く、本邦の如く、

心得細字

竹口四、此、及、金、事、書、書、の、如、故、出、す、事、也、

但、就、外、人、例、有、預、金、事、也、

一、四、此、世、道、作、事、一、部、之、大、概、也、

後、事、不、合、事、書、事、也、

方、之、如、此、也、

九、

心得書

去、月、七、日、如、此、事、書、事、也、

如、精、神、也、

事、之、如、此、也、

去、月、七、日、如、此、事、書、事、也、

如、精、神、也、

事、之、如、此、也、

去、月、七、日、如、此、事、書、事、也、

如、精、神、也、

事、之、如、此、也、

去、月、七、日、如、此、事、書、事、也、

如、精、神、也、

事、之、如、此、也、

去、月、七、日、如、此、事、書、事、也、

如、精、神、也、

九、

此書の序文は、
一、此書の宗旨は、
二、此書の編纂は、
三、此書の出版は、
四、此書の利益は、
五、此書の責任は、
六、此書の希望は、
七、此書の謝意は、
八、此書の署名は、
九、此書の発行は、
十、此書の印刷は、

一、此書の宗旨は、
二、此書の編纂は、
三、此書の出版は、
四、此書の利益は、
五、此書の責任は、
六、此書の希望は、
七、此書の謝意は、
八、此書の署名は、
九、此書の発行は、
十、此書の印刷は、

一、此書の宗旨は、
二、此書の編纂は、
三、此書の出版は、
四、此書の利益は、
五、此書の責任は、
六、此書の希望は、
七、此書の謝意は、
八、此書の署名は、
九、此書の発行は、
十、此書の印刷は、

一、此書の宗旨は、
二、此書の編纂は、
三、此書の出版は、
四、此書の利益は、
五、此書の責任は、
六、此書の希望は、
七、此書の謝意は、
八、此書の署名は、
九、此書の発行は、
十、此書の印刷は、

二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

Handwritten text in cursive script, likely a list or account, covering the upper and middle sections of the left page.

Handwritten text in cursive script, likely a list or account, covering the lower section of the left page.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a specific entry, located on the right page.

辛酉年六月廿七日
方以修之

九
竹園

王季文
文化

十
修

文

石

永
之

王季文

十
修

文

十
修

文

十
修